

インスピレーションになろう

BE THE INSPIRATION



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 五味 秀幸

幹 事 手塚 正智

会報・雑誌委員長 吉田 恭平

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2800号 2018年8月7日(雨) 第6回例会 会員数123名 列席84名 出席率77.78%

点 鐘 五味 秀幸 会長
司 会 SAA 鈴木(明) 会員

◇国歌「君が代」

◇ロータリーソング「四つのテスト」

◇本日のランチ

山海の煮物 特製メンチカツ 小付 香の物
汁 御飯 デザート



ビジター紹介 稲見副会長

◇来訪ロータリアン

2名(1クラブ) 累計26,490名

宇都宮RC 北村光弘様 増瀬好次郎様

◇日本棋院 棋士 恩田烈彦 九段 様

会長挨拶 五味 秀幸 会長

皆さん、こんにちは。先日、宮まつりが無事終了しました。昨日は作新学院が初戦突破は出来ませんでしたが大変良い試合をしました。8月7日は、暦の上では立秋です。台風13号が来ていて雨が降っており、今日は幾分涼しいという感じがします。ところで8月は会員増強月間ということですので。今月は3回の例会がござりますが、3回目の夜間例会の時に、入会候補者のリストアップを宜しくお願ひしたいと思います。本日の卓話は恩田烈彦九段ということで、囲碁のいろいろなお話を聞けるとお思います。興味を持って拝聴していただきますようお願い申し上げます。



幹事報告 手塚 正智

◇ロータリーレート 8月は1ドル112円

◇本日18時30分~ ホテルニューイタヤにて

五味 秀幸 年度第2回定例理事会開催。

◇8月14日は定款第8条第1節(C)による休会

◇RLI(ロータリーリーダーシップ研究会)

の参加者が少ないので希望者は8/9までに幹事へ。



委員会報告

◇スマイルボックス委員会

八田委員

渡邊和裕 会員

8月2日の薬剤師会理事会で栃木県薬剤師会の会長の職を承認されました。薬剤師会発展の為に頑張ります。13時より福田知事へ挨拶の為に先に失礼します。

◇親睦委員会

山崎副委員長

<誕生祝い・8月>

会員誕生

伴 誠、羽石 光臣、小篠 一暉、
松本 弘元、永井 泰幸、中村 吉辰、
関 元明、高木 敬、戸崎 勝彦、
八城 光男、吉川 卓志、宇野 亮治、
各会員

夫人誕生

伴 誠、菊地 正幸、辻 裕司、
各会員の奥様



卓 話

「碁打ち衆の末裔として」

日本棋院 棋士 恩田烈彦九段 様



本日は碁士の世界ということでお話をさせていただきます。私は、幸いなことに昨年2月に九段に

昇段することができました。表彰式では昇段者を代表して理事長から九段の免状をいただきました。「手段が神域に達す」と読み上げて免状をいただいたことは、生涯最高の思い出でございました。八段から九段になるには200勝が必要です。平成6年から23年間かかりました。7月12日に日本棋院の現役棋士の人数を調べましたところ338名でした。その時タイトル保持者は先日国民栄誉賞を受賞した井山裕太七冠の1名でしたが、8月3日の碁聖戦五番勝負で挑戦者の許家元七段がタイトルを奪取し、現在のタイトル保持者は井山六冠と碁聖の2名となっております。

「碁打ち衆の末裔について」という大それたタイトルですが、碁士と呼ぶか、碁打ちと呼ぶか、いろいろ調べてみました。新聞囲碁欄の観戦記者だった田村竜騎兵さんが日本棋院から出した本、「物語囲碁史」から引用しますと、昭和47年3月の端書きに「碁打ちというのが正式な名称であった。碁士という呼び方が一般的になったのは、つい最近である。」と書かれています。あえて、題名に碁打ちを選んだのは、碁士という職業というものを越えた碁打ちとしての生き方を私なりに考えてお話ししたいと思ったからです。

囲碁は紀元前2千年頃に中国の皇帝である堯が息子の丹朱を教え導くために発明したという伝説があります。日本に伝来したのは奈良時代、遣唐使の吉備真備が伝えました。その後、源氏物語に描写されているように貴族の間で流行し、戦国時代には武将達が愛好しました。京都寂光寺の日海上人という僧侶で、本因坊算砂と号した人がおります。算砂は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三代にわたり囲碁指南役を務めました。織田信長から「おまえは名人じゃ。」と言われたことが名人という称号の起源と言われております。天正13年、関白になった豊臣秀吉が大競技会を開催し、抜群の成績を修めた算砂の功績を讃えるために、朱印状を発行しました。その後、徳川家康の時代に「碁打ち衆」として俸禄が与えられました。算砂は囲碁も将棋も強く、碁所兼将棋所でしたが、将棋所は大橋宗桂に譲り碁所に専念したという歴史があります。そういう意味で、囲碁と将棋は今でも関わりが深く交流が盛んです。囲碁は難しいと言われますが、ルールは少なくシンプルで、ひと言で言えば陣取りゲームです。難しいというより奥が深いという表現があてはまると思います。

殆どのタイトルを独占している井山さんがどうしてここまで強くなったかですが、子供の頃、師匠の石井邦生九段からインターネットでの対局を700局打って貰ったそうです。師匠の家まで片道2時間半という環境の為だったそうですが、こうした例は囲碁の世界では珍しいと思います。私

の師匠の大枝雄介九段は、結局、一度も打って貰えないうちに他界してしまいました。私が本格的に碁士を目指そうと思ったのは中学3年生の時でした。父は、好きな道を選ばなかったという後悔から、私には好きな道を進め、という考えでした。進学か囲碁かという選択をする時に、囲碁の道を選びました。中学3年生の間は、日本棋院のプロ養成機関の院生として、土日に東京で研修を受けました。上京して、大枝九段の内弟子として入門しました。送ってくれた両親の帰る姿が今でも忘れられません。内弟子生活では、多くの人達と内弟子として共同生活を送りました。その時の経験が未だに私の肥やしになっていると思います。何故碁士を目指したかといえば、私が碁打ちだったから、ということになると思います。今まで有望な青年がどれだけ碁士の道を諦めてきたかを見てきました。平成30年に採用されたプロ碁士は全国で6名です。どんなに才能に恵まれていても親などの周囲の協力がなければなかなか難しい世界です。プロにならずとも、アマの強豪として一流企業に就職するという道もありますが、碁士、碁打ちを目指すというのは、とにかく碁が好きだ、ということに尽きると思います。

2016年3月9日を境に囲碁会は大きく変わりました。アメリカのグーグルの子会社のディープマインド社が開発した人工知能「アルファ碁」が世界のトップ碁士である韓国のイ・セドル氏に勝利しました。人工知能が人間を負かしたことで、囲碁界が滅びてしまうのではないかという衝撃でしたが、現実にはそんなことはなく、私より若い世代は、便利なツールとして使いこなしていくのではないかと思っています。「アルファ碁」は人間の膨大な対局データを入れたのですが、その後開発された「アルファ碁ゼロ」は人間のデータを一切入れずに囲碁のルールだけを教え、自己対戦させて進化させたものです。驚くべきことに一ヶ月もたたないうちに最強になってしまいました。

最後に私の書いた文章を紹介して終わりにしたいと思います。

『問題が必要な理由』私にとって問題とは、ライフサイクルの一つだ。問題を解決することによって成長がある。また、自分のわからない問題があったとき、それをクイズのような問題とすることによって、客観的に自分を見ることが出来る。もし、問題がなかったら、人生はただ生きるだけの無味乾燥なものとなるだろう。問題という言葉には問題児とか、否定的なイメージも含まれている。だが、私の持つ問題のイメージは、人生を楽しくするためのスパイス、そして私の盟友なのだ。